

自 己 評 価 表

愛媛県立今治西高等学校伯方分校

学校番号 14.1

教育方針	地域に根ざし、個々の生徒に応じた教育を目指し、勤労と責任を重んじ、人間性の涵養に努め、豊かな文化の創造と発展に寄与することのできる心身ともに健全な人間を育てる。	重点努力目標	『にしき(忍耐・真剣・希望)を体現できる生徒の育成』 —個別指導の充実と主体性を育む教育活動の実践— 忍耐…風雪の道を歩み、自己をきたえる 真剣…探究の道を歩み、英知をみがく 希望…理想をかかげ、未来をひらく
------	--	--------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
教育活動全般	魅力ある学校づくりの推進	伯方分校独自の学校行事や総合的な学習(探究)の時間を充実させ、伯方分校に入学してよかったと思う生徒100%を目指す。	A	85%の生徒、90%の保護者が伯方高校(伯方分校)への入学に対して肯定的に考えおり、教職員も概ねそう考えている。	進路指導を充実させ、学校行事や部活動を活性化することで、保護者や地域の人たちにとって、より魅力的な学校づくりに努める。
		学校ホームページ(開校日毎日更新)や、にしき通信(年12回)、伯高タイムズ(年4回)の発行、PTA会員の学校行事への参加等、積極的な情報発信に努める。	A	ホームページ、発行物ともに100%達成されている。多くのPTA会員が文化祭やサイクリングイベントで活動し、各校務分掌との連携により積極的な情報発信に努めることができた。	PTA活動においては、生徒数減少の中、PTA役員の負担も大きくなっているが、会長を中心に十分な計画を立て、円滑に活動できるように配慮する。
	教職員の資質・能力の向上	校内外の研修の機会を確保しながら、各課・各教科と連携し、教職員の資質・能力や授業力、生徒指導力等の向上を図る。	B	各課・各教科と連携を図り、校外研修への参加を促し、指導力の向上を図った。指定された以外の校外研修また、校内研究授業によって、自校の特徴に応じた授業の研究を行うことができた。	校外の研修へ積極的に参加できているとは言いがたいので、授業改善推進事業の公開授業等への参加を積極的に呼びかける。
	施設・設備の充実	施設・設備の点検を管理責任者を中心に確実に行うとともに、継続的な清掃活動と併せて校内美化を重点的にを行い、教育活動の場としてふさわしい環境づくりに努める。	B	普段の清掃活動を中心に、校内美化に努めた。学期末に管理責任者による点検を行い、破損箇所や危険箇所がないか確認した。教室利用時に気づいた点については事務課と連携し、速やかに修繕することができた。	掃除用具等、使用頻度が高い備品の破損が多かったので、丁寧に使用するよう指導する。施設・設備の修繕が速やかに行えるよう、事務課と連携する。
学習活動	家庭学習の充実	家庭学習時間調査を活用した個別面談の実施や長期休業中の課題一覧表を配付することにより、家庭学習の質の向上や学習時間の増加を図り、1日平均3時間以上学習する生徒数81名(80%)以上を目指す。	B	年間4回実施した家庭学習時間調査の結果や分析をHR担任等に配付することで、家庭学習の質の向上に生かすことができた。1日平均3時間以上学習する生徒は4回の調査で50%、51%、56%、65%と増加しているが、80%を超えることはできなかった。	課題を具体的に指示し、確認テストや補習を実施することで、家庭学習時間の増加を図る。
	教科指導力の向上	各教科はもちろんのこと、総合的な学習(探究)の時間においてもアクティブラーニングを推進する。また、電子黒板等のICT機器の利用を促し、指導力向上を図る。	B	総合学習の時間では、各プロジェクトがアクティブラーニングを推進することで、活発な活動がみられた。また、電子黒板の利用状況はやや少ないが、情報教室やプロジェクト等は多く利用された。	電子黒板を利用した研究授業を全ての教科で実施し、全ての教員が活用できる能力を育成する。
	各種検定の奨励	各種検定合格者のべ71名及び実用英語技能検定2級・漢字検定2級・実業科各種検定試験1級等の上位資格取得者合計5人以上を目指す。	B	各種検定合格者のべ88名、上位資格取得者2名であった。生徒数の減少等があり、数値目標を達成することはできなかった。	生徒たちに検定取得によるメリットを伝え、受検者数を増やすとともに、個別指導を徹底させる。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	登校指導や身だしなみ指導を通して、挨拶の励行や基本的な生活習慣の確立に努め、各学期皆勤者70%(71名)以上を目指す。	B	1・2学期通した皆勤者は64%と、目標を下回った。挨拶や身だしなみについては、おおむね良好であった。	生活習慣の確立や身だしなみを整えることの意義について、生徒主体に考えさせ、その重要性に気付くことができるような指導を行う。
	交通安全指導の充実	生徒会や交通安全委員会を中心に、関係諸機関と連携しながら、交通マナーの向上及び交通事故ゼロを目指す。	B	地元の警察と連携し、地域のイベントで防犯・交通安全を呼び掛けたり、街頭で運転者にアピールするなど、校外でも活動できた。	繰り返しアピールすることで、さらに意識の向上を図る。他の委員会や部活動と協力し、よりよいアピール方法を提案する。
	特別活動の活性化	運動会・文化祭を中心とした学校行事について、内容を再検討することでさらなる充実を図り、生徒の満足度90%(91名)以上を目指す。	B	学校行事に関する生徒の満足度は88%と、わずかに及ばなかった。記念行事として開催した前年度に比べ、コンパクトに収めたことが影響しているのではないかと考えられる。	生徒会を中心に、内容を再検討し、コンパクトでありながらも充実感を得られる実施方法を考える。
		運動部及び文化部の活動を活発にし、部活動加入者101名以上を目指す。運動部及び文化部で県レベル以上の大会に出場する生徒75名以上を目指す。	B	部活動加入者は、兼部を含めて114名であった。県レベル以上の大会出場者は、のべ73名であった。	ボディケアや生活習慣の見直しによりけがや病気を防ぎ、より良いコンディションで部活動に参加できるように指導する。
		地域が抱える課題について主体的に考える生徒を育成するため、生徒全員が奉仕体験をすることを旨とする。	B	地域で実施されるイベントに積極的に参加した。クリーン愛媛を実施し、生徒全員が地域の美化に貢献した。	地域に対する理解を深め、どうすれば活性化に主体的に関わることができるかについて考えさせる。
進路指導	進学指導の充実	教職員相互の連携を基盤として、生徒一人ひとりに応じた適切な進学指導を行うことにより、学力の伸長を図り、進学希望者全員の進学(国公立大学5名程度)を目指す。	B	年度当初に進路希望調査を実施し、その内容を全教員で共有した。また、5月中旬には3年生を対象とした進路指導委員会を実施し、より細かな指導法を検討した。その結果進学希望者は全員が希望する進路を確保できた。2月末時点での国立大学合格者は2名である。	推薦入試やAO入試による進学割合が高くなっている。集団としての学力を伸長させるためにも、一般入試で受験・進学させる必要がある。
		学習習慣の確立と基礎学力の定着のために、家庭学習の充実とサタデースクール満足度100%を目指す。	B	基礎力診断テストを導入し、事後指導を通じて学習習慣の確立、基礎学力の定着を図った。サタデースクールについても約80%の生徒が満足感を得ている。	サタデースクールの計画や実施内容を事前に知らせることを徹底することで、家庭での学習を充実させ、サタデースクールに対する満足感をさらに高めたい。
	就職指導の充実	地元企業と密に連絡を取り合うことにより、就職情報の提供や求人開拓に努め、就職希望者全員の進路実現を目指す。	A	求人票が送られてこなかった企業への求人依頼、地元企業を招いての企業説明会、応募前職場見学の実施等により、希望者全員の内定を得ることができた。	結果的に早期に進路が実現したが、就職活動の流れを理解していない保護者や生徒による行動が複数発生した。周知を徹底したい。
各種資格の取得や基礎学力テストの定期的な実施により、学習習慣を身に付けさせるとともに、望ましい勤労観、職業観を育成する。		B	資格取得状況は昨年同様の状況、基礎学力テストへの取り組みも同様の成果を得ている。昨年の就職者は現時点で離職ゼロの状況なので、順調に育成できている。	次年度の就職希望者は学力が低い生徒、人間関係を築くのが苦手な生徒、生活習慣の身に付きにくい生徒等が多く在籍するので例年よりきめ細やかな指導が必要である。	

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。